NEWS RELEASE

報道関係者各位

2026 年 11 月 10 日
オープン株式会社

「AI 活用を、個人戦から団体戦へ。」
オープン、NexTech Week 2026【秋】AI・人工知能 EXPO に出展
～業務の可視化からデータ化・自動化・統合まで一貫支援。
RPA のエラー原因特定・復旧を AI がサポートするテスト製品も初展示～

オープングループ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：高橋 知道）の子会社であるオープン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役執行役員社長：石井 岳之、以下「オープン」）は、2026 年 11 月 11 日（水）から 13 日（金）まで幕張メッセで開催される「NexTech Week 2026【秋】」内の「第 7 回 AI・人工知能 EXPO【秋】」に出展いたします。

NexTech Week 2026 秋
人、企業、世界の「未来」へ

ブースでは**「AI 活用を、個人戦から団体戦へ。」**をテーマに、業務の可視化、データ化、自動化、統合を支援する各種 AI・RPA ソリューションをデモとともに展示します。

また、RPA ロボットなどにエラーが発生した際、AI エージェントが原因特定や復旧をサポートする「AI 運用保守エージェント」のテスト版を初展示。AI による業務自動化だけでなく、導入後の安定運用を支援する新たな取り組みも紹介します。

さらに、各製品・サービスを企業の実際の業務に組み込み、成果創出まで伴走する「日本型 FDE（Forward Deployed Engineer）」も紹介し、来場者それぞれの課題や AI 活用の進捗状況に応じて、最適な製品・サービスの組み合わせを提案します。

ブース内でミニセミナーも開催し、ここでしか公開しない業界別の FDE 対応事例等も解説します。

■出展背景：AI を「使う」から「成果を出す」へ

生成 AI や AI エージェントの普及により、企業における AI 活用の選択肢は急速に広がっています。一方で、AI の利用が個人や特定部門にとどまり、組織全体の業務改革や生産性向上につながっていないケースも少なくありません。

例えば、「どの業務から AI 活用を始めればよいかわからない」「紙やファイルに分散した情報を業務に活用できない」「自動化した業務の運用・保守に負担がかかる」「部門ごとに導入した AI やシステムが連携できていない」といった課題が挙げられます。こうした課題を解決するためには、単に AI ツールを導入するのではなく、既存の業務やシステムとの連携を含め、業務プロセス全体を見据えた設計と実装が求められます。

オープンは、これまで培ってきた業務自動化の知見と AI 技術を組み合わせ、企業ごとの課題に応じた業務改革を支援しています。今回の展示では、**「AI は賢い。でも、業務は知らない。」**というメッセージのもと、業務を理解するオープンだからこそ提供できる、AI を「使う」だけに留まらない「成果を出す」ためのソリューションを紹介します。

■4 つの領域から、企業の課題に応じた最適な解決策を提案

オープンのブースでは、企業の AI 活用を「可視化（Discover）」「データ化（Digitize）」「自動化（Automate）」「統合（Orchestrate）」の 4 つの領域に分類し、それぞれの課題に対応する製品・サービスを展示します。

来場者は、自社の課題に近い領域から展示を確認でき、担当者との対話を通じて具体的な解決策を検討できます。

1. 可視化（Discover）｜OroSee

「何から自動化すればよいかわからない」を解決

「OroSee」は、AI による業務ヒアリングを通じて、現場の業務を可視化し、改善・自動化につなげるソリューションです。AI が現場担当者へのヒアリングを行い、業務一覧や業務フロー図を作成。ヒアリング結果に基づき、業務改善や自動化の対象となる業務を整理します。業務の実態把握から改善提案、RPA・AI による自動化まで一貫して支援することで、企業の業務変革を後押しします。

2. データ化（Digitize）｜AI パンチャー

「書類の確認・転記に時間がかかる」を解決

「AI パンチャー」は、形式の異なるさまざまなファイルから必要な情報を抽出し、業務に活用できるデータへ変換するソリューションです。請求書、領収書、名刺、履歴書、登記簿謄本、手書き FAX など、多様な書類の読み取り・データ化に対応。日本語による指示で必要な情報を抽出し、台帳や資料の作成まで自動化します。書類の確認や転記といった定型作業を効率化し、従業員がより付加価値の高い業務に集中できる環境づくりを支援します。

3. 自動化（Automate）｜BizRobo!・AUTORO／AI 運用保守エージェント／Mention Me

「自動化した業務を、継続的に運用・改善したい」を解決

オープンが提供する RPA「BizRobo!」と AI 実行基盤「AUTORO」は、企業の業務内容やシステム環境に応じた自動化を実現します。導入支援や人材育成、運用・保守、社内サポートまで幅広く支援し、一部業務の自動化にとどまらない、継続的な活用と全社展開を後押しします。

また今回は、RPA の運用・保守における負担軽減を目指すテスト製品「AI 運用保守エージェント」を初展示します。

本製品は、RPA ロボットなどにエラーが発生した際、AI エージェントがエラーの原因特定や復旧作業をサポートするものです。従来、担当者による調査や対応が必要だったエラー処理を AI が支援することで、運用・保守にかかる負担の軽減や、自動化した業務の安定稼働を目指します。AI エージェントを活用した RPA 運用・保守の新たな可能性を紹介します。

そして「Mention Me」は、AI エージェントの構築から運用・最適化までを支援する基盤です。AI の回答品質を継続的にチェックするとともに、用途に応じた AI の使い分けや処理の最適化によって、品質・コスト・応答速度のバランスを維持し、AI エージェントの継続的な活用を支援します。

4. 統合（Orchestrate）｜TotalAgility

「個別に自動化した業務が、組織全体ではつながっていない」を解決

「TotalAgility」は、人・AI・RPA・既存システムを連携させ、部門をまたぐ業務プロセスを一元管理するオーケストレーションプラットフォームです。

業務の受付から処理、承認、完了までをひとつの流れとして管理することで、部門間の情報の受け渡しや手作業による転記、業務の滞留といった課題の解消をバックアップします。

個別業務の効率化にとどまらず、業務プロセス全体をつなぐことで、組織横断的な業務改革を推進します。



■日本型 FDE が、製品導入から現場実装・定着まで伴走

今回の展示では、各製品・サービスに加え、それらを横断して企業の課題解決を支援する「日本型 FDE」も紹介します。FDE（Forward Deployed Engineer）は、エンジニアが顧客の現場に入り込み、業務課題の理解からシステムの設計・開発、運用への定着までを支援するアプローチです。

オープンが提唱する「日本型 FDE」は、既存のシステムやデータ、業務環境を活かしながら、企業ごとの課題に応じた実装を進めることを重視しています。現場に入り込んで業務を理解し、成果につながる領域から着手するとともに、既存ベンダーとも協力しながら、導入後は企業自身が継続的に活用・改善できる状態を目指します。

「賢い AI を、泥臭く、成果が出るまで実装する。」

オープンは、AI や RPA などのテクノロジーと現場に寄り添う実装支援を組み合わせ、企業の AI 活用を個人・部門単位から組織全体へと広げ、継続的な成果創出につなげてまいります。

■展示会概要

展示会名：NexTech Week 2026【秋】内「第 7 回 AI・人工知能 EXPO【秋】」
会　　期：2026 年 11 月 11 日（水）～13 日（金）10:00～17:00
会　　場：幕張メッセ 1～3 ホール
主　　催：RX Japan 合同会社
開催概要：https://www.nextech-week.jp/hub/ja-jp/about/ai.html

▼オープンの展示ブースについて

小 間 番 号：8-70（2 ホール）
出展テーマ：AI 活用を、個人戦から団体戦へ。
主な出展製品・サービス：OroSee、AI パンチャー、BizRobo!、AUTORO、AI 運用保守エージェント、Mention Me、TotalAgility、FDE

【会社概要】

■オープン株式会社（https://open.co.jp/）

・本社所在地：東京都港区西新橋 3-3-1 KDX 西新橋ビル 3 階
・設　　立：2013 年 7 月
・代 表 者：代表取締役執行役員社長　石井 岳之
・資 本 金：3,000 万円
・事 業 内 容：スマートロボット（RPA、AI）を活用した情報処理サービス、コンサルタント事業、アウトソーシング事業、デジタルマーケティング、オンライン広告事業